

Contents

Point of View	1
Opinion	2~3
Activities	4

【事務局】 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-37-4 友田三和ビル3F
TEL 03-3296-0769 FAX 03-3296-0779 URL <http://www.ajec.com/>

Point of View

◆ 編集技術講座、日本編集制作大賞（仮称）の具体的な実施計画案がまとまる

新春のお慶びを申し上げます。本年も協会活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、2006年度から資格認定制度を目指した「編集技術講座」と、新たな顕彰制度「日本編集制作大賞」（仮称）の実施を予定しています。具体的な計画案は以下の通りです。

<編集技術講座>

編集技術講座は、①基礎的な編集技術の向上ならびに編集ノウハウの蓄積、②編集制作のデジタル化に対応した先端技術の習得、③受講者の情報交換や相互交流を目的にしたもので、将来の資格認定制度の導入を視野に入れて実施します。講師は出版社や会員社のベテラン編集者、ジャーナリスト、デザイナーなどを予定し、年10回の体系的なセミナーを通して編集プロダクションの社員が最低限必要とする編集制作の知識や技術を習得してもらいます。受講者は会員・非会員を問いません。また全カリキュラムを受講した人には修了証を交付し、一定の基礎知識を身につけたことを認定いたします。

◆開講日と講座内容（予定）

第1回（4月21日午後6時30分～）

「今日の出版界と編集者の役割」

第2回（5月19日午後6時30分～）

「売れる書籍の企画作り」

第3回（6月16日午後6時30分～）

「読者を引きつける雑誌の企画作り」

第4回（7月21日午後6時30分～）

「取材のコツと執筆のポイント」

第5回（9月15日午後6時30分～）

「原稿整理・校正のテクニック」

第6回（10月20日午後6時30分～）

「デザイン・レイアウトのコツ」

第7回（11月17日午後6時30分～）

「カメラワークとディレクション」

第8回（1月19日午後6時30分～）

「DTPとデジタル編集」

第9回（2月16日午後6時30分～）

「最新の印刷技術と紙・製本の知識」

第10回（3月16日午後6時30分～）

「著作権・差別用語の知識」

◆備考 開講日はいずれも毎月第3金曜日（8月と12月を除く）で、講義時間は約2時間。会場は東京・一ツ橋の日本教育会館を予定しています。費用は年間1人20,000円（非会員は30,000円）、スポット受講は1回3,000円（非会員も同一）です。

<日本編集制作大賞>

会員社が中心的に編集制作業務に携わった書籍、雑誌、教材、広報ツールなどの作品の中から、クォリティ、スキル、ルーチン（継続性）などの面で特に優れた作品を選考し、その功績を称えることを目的とした顕彰制度です。選考対象は国際ブックフェアの協会ブースに募集出展する「我が社の1冊」で、1社1作品に限定して以下の通り実施します。

◆会場・実施日

国際ブックフェアの会場で、版元、書店、取次などの関係者や専門家が多く来場する前半の2006年7月6日（木）～7日（金）に行います。



昨年7月に開催された国際ブックフェア会場の編集制作プロダクションフェアのコーナーと、「我が社の一冊」を展示した協会ブース

◆選考方法

①作品の内容、携わった仕事の範囲などを明記・添付し、一般書、企業出版、教材の3部門にわけて陳列棚に展示します。公正を期すため配置する場所は各部門ごとに抽選によって決め、各作品に番号をふります。③不正防止のため記名投票とし、1人1票とします。④投票資格は期間中にブックフェアの協会ブースに来場した人全員ですが、出展社の社員は自社の作品には投票できません。⑤投票は2日目の夕刻5時をもって終了し、ただちに担当理事立ち会いのもと集計します。

◆各部門賞／副賞

日本編集制作大賞	グランプリ	1点
同	一般書部門賞	1点
同	企業出版部門賞	1点
同	教材部門賞	1点

表彰楯のほか、グランプリに5万円、各部門賞に3万円を贈呈します。また受賞作品はリボン記章をつけ、ブックフェアの後半2日間にわたって展示披露します。さらに後日の例会などの行事で表彰式を実施する予定です。（副理事長・高雄宏政）



◆ご出席者（音順）

伊藤 隆氏（株式会社エディット）

平田 顕氏（株式会社キャデック）

山本肇圀氏（株式会社シナップス）

◆司会

檜森雅美（日本編集制作会社協会理事長）

編集プロダクションはこれからどのように変化し、新しい時代を切り開いていくのでしょうか——。今回は編集プロダクション業界の次代を担う協会会員社の若手幹部・中堅社員に集まっていたいただき、編集プロダクションに対する認識と将来展望を語っていただきました。

多くの人々との繋がりが 編集プロで働く面白さ

——皆さんの会社の概要と自己紹介をお願いします。

伊藤 私が勤務しているエディットは名古屋に本社があり、嘱託社員やアルバイトを含めると約50人のスタッフがいます。学習教材が中心で、9教科体制を敷いており、そのほかに一般書なども手がけています。私はまだ5年ほどの経験ですが、国語課の課長を任せられ、東京などへ出張する機会も多くなっています。

平田 私のいるキャデックは、教科書から辞書、単行本、雑誌などを幅広く手がけ、30年近い歴史があります。実は私の父が当社の創業社長で、3年ほど前に「仕事を手伝ってくれないか」と言われて入社しました。当初



平田 顕氏
（株）キャデック制作・進行担当

はデザイン担当でしたが、社員が10人ほどのため、最近では進行から営業まで幅広くやらされています（笑）。

山本 私どものシナップスは教材部会に所属し、教科書や学習参考書などの編集が99%を占めています。社内には約15名の編集者がいて、小中学校から高校、大学受験用までの教材を手がけています。当社も私の父親が創業し、35年の歴史がありますが、私は中途入社のためまだ5年ほどの経験しかありません。それでも統括部長を任せられ、営業や進行管理などを手伝っています。

——皆さんにとって編集プロダクションの面白さとは何でしょうか？

伊藤 多くの版元さんとお付き合いをさせていただくと、幅広い繋がりができ、いろんな考え方に接することができます。それはとても新鮮であったり、仕事上のヒントになって、次に活かせるということが結構あります。そういう多くの人びとに接する機会があることが、私にはとても面白いし、役立っています。

平田 確かにそうですね。それと、キャデックは特定のジャンルにこだわっていないので、犬の本を編集していたと思ったら、次はビジネス書を手がけたりとか。そういう意味ではいろんなことができ、働いて面白いなと感じます。

——キャリアを積むにつれて版元と

の信頼関係が形成され、相談されることも多くなります。その辺もこの仕事の面白さではないですか？

山本 その通りですね。シナップスにはよく版元さんから新人の方などが来られて、編集の基本的なことを学んでいきます。編集やレイアウトなどに関してはうちの編集担当の方が詳しいですからね。そうしたことが、社員の自信にも繋がっています。——では、逆に難しさは？

伊藤 クライアントさんの発注の仕方です。納期が短いのにむりな要求をしてきたり、基本的な趣旨を示してもらえないために、最後になってうまく行かずにあたふたすることが結構あります。



伊藤 隆氏
（株）エディット第一編集部課長

山本 丁寧に編集をしていたら、そこまでやらなくても良いと言われることもありますしね（笑）。こういった見極めは難しいですから、うちでは最初の打ち合わせで、相手がどこまで望んでいるのかを徹底的にリサーチするようにしています。

——編集のノウハウやスキルは個人に蓄積されるので、人に依存せざるを得ないという難しさもあります。

平田 仕事は能力のある人に集中し

ますからね。編集の仕事は半年一年でマスターできるわけではないから、人材の育成には時間がかかる。人の力で成り立つビジネスだけに、優秀な人材を集め、管理するということが大変です。

山本 本を作るという仕事は、長ければ1年以上もかかることがありますし、作業中は結果が見えづらい。ですから誰がどのような仕事をしているかを常に掌握し、合間ごとに正しく進行しているかをチェックする必要があります。ある程度形になってから間違いが見つかって大変ですからね。そういう意味でも、人の管理が難しい業界だと思いますね。



山本隆圀氏
(株)シナップス 統括部長

「安い、早い、うまい」から 企画提案型の編集プロへ

——編集費の下落も編集プロダクションの抱える問題の一つだと言われていますが、この点についてはどのように考えていますか？

伊藤 編集単価の下落は教材でも起きています。その中で採算をとるためには、やはり量をこなし、利益を生み出していくしかないでしょう。そのためにもネットワークを活用し、作業のスピードアップを図っていかねばなりません。それと、新規業務の拡大にも努めて行く必要があります。例えば、これまで手がけたことがない仕事でも、依頼されたら単純に断るのではなく、何とかやってみようという積極的な姿勢が必要だと思いますね。

山本 一定期間で編集できるページ数は、その作業に携わる人数に比例しますから、量を多くやろうと思ったら、どうしても人件費がかかります。しかもクオリティは下げられな

いわけですから、編集プロダクションの経営はどんどん厳しくなります。それを打破するためには、競合他社との差別化を図り、難しい仕事でもとってくるようにしなければならぬと思っています。

平田 何だかんだと言っても、現状は受注業だし、そこから抜け出せないところがありますね。クライアントが求める「安い、早い、うまい」に素直に応えていたのでは、体力勝負になっていずれは消耗してしまいます。やはり、これからの編集プロは付加価値を付けていかなければならない。受け皿ではなく、仕事が発生するような企画力を持った会社に変えていかないとダメでしょうね。

——企画力はもちろん重要ですが、さらにビジネス上の提案もしながら、「一緒に儲けましょう」と言う発想も必要なんですよね。出版社の機能には編集、販売、広告がありますが、これまでの編集プロダクションは編集のアウトソーシングだけを請け負ってきました。これからは広告なども一緒に提案できる編集プロダクションが出てきて良いと思いますね。それでは最後に、編集プロダクションで働く若い人たちへのメッセージをお願いします。

山本 今ではインターネットを辞書代わりにしている人を多く見受けませんが、本当の知識は自分で開く本の中にあると思います。そういう意味でも本を作るということは重要だし、意義のあることです。それを認識して、若い人たちがもっと「本づくり

が嬉しい」と思うようになっていたきたいですね。

平田 面接などで編集プロダクションを希望した理由を聞くと、「本が好きだから」という人がたくさんいます。もちろんそれも大事ですが、一歩先に進んで、自分が作りたい本を見つけ、それを企画提案して世の中に出すということに喜びを感じるようになって欲しいですね。

伊藤 簡単なようで難しいと思うんですが、素直な気持ちで努力して、日々研鑽して欲しいですね。そして自分にしかできないものを引っさげて、大きく飛び跳ねてもらえたら良いと思います。

——編集という仕事は、机とパソコンがあればだれでも始められるし、装置産業でも規制業種でもないので参入は容易です。それだけに多様性に富んでい

るし、競争も激しく、出版業界全体として供給過剰の状態に陥っています。もちろん、本の持っている



榎森雅美
日本編集制作会社協会理事長

る価値や役割は当分なくなることはないでしょうし、これからの時代に皆さんのような若い人たちの中から編集のスターが出て、新しいビジネスモデルを作ってもらうことを願っています。本日はありがとうございました。(文・構成：編集部)

Admission

新入会員社紹介

正 株式会社 説話社

住 所 〒169-8077 東京都新宿区西早稲田1-1-6

TEL. (03) 3204-3221 FAX. (03) 3204-3182 URL <http://www.setsuwa.co.jp>

代表者 代表取締役 酒井文人 設立 1977年10月24日 社員数 正社員48名

取引先 実業之日本社、日本文芸社、文芸社、青春出版社、ベルシステム24、テレシスネットワーク、メディアコンテンツプラン、大日本印刷、凸版印刷、トーハン、ニッパン、大阪屋、栗田出版販売、太洋社ほか

特 徴 月刊『My Birthday』、姉妹誌『Misty』(共に発行：実業之日本社)の編集ほか、占いに関するムック、単行本などを主に編集するほか、1998年からは占い書を中心とする出版業を開始。また2000年頃から、インターネット、携帯などへの占い情報配信を開始し、占いや運命学の分野における幅広い活動を行っています。

秋季ゴルフコンペ

10
6

第35回AJECゴルフコンペ秋季大会が、去る10月6日(木)に茨城県・筑波郡の取手国際ゴルフ倶楽部で行われました。当日は4組15名が参加し、ネット71(HC9)で回った(株)アイフィスの小原好春氏が優勝しました。そのほかの上位入賞者は以下の通りです。

なお次回「第36回AJECゴルフコンペ春季大会」は、4月15日(土)に千葉県の上野台カントリー倶楽部で開催する予定です。

順位	氏名	社名	ネット	グロス
1	小原好春	アイフィス	71	80
2	辻田邦彦	トークス	72	103
3	高橋直樹	アビームコンサルティング	72	93

秋の例会

11
18

経営委員会が企画運営する秋の例会が、11月18日(金)午後6時30分から東京・一ツ橋の日本教育会館で開催されました。今回のテーマは「労働基準法と編集プロのための就業規則の作り方」。講師は社会保険労務士兼日本マンパワー社員教育専任講師の中村俊之先生(写真上)で、当協会会員の(株)エディットが作成した実際の就業規則を参考に、労使円満に向けたトラブル回避の就業規則作りについて学びました。なお参加者には、会員の(株)オフィス201が編集協力した『小さな会社の労働基準法と就業規則』(ナツメ社刊)が、贈呈されました。



就業規則の作り方を学んだ「秋の例会」

秋の全国拡大編集セミナー

10
28

組織委員会・教育委員会合同の「AJEC 秋の全国拡大編集セミナー2005」が、10月28日(金)午後1時30分から東京・一ツ橋の日本教育会館で開催され、非会員社を含め90名近い参加者が集まりました。当日は筑摩書房の松田哲夫専務が「出版が抱えている問題」と題して講演し、次いで出版ニュース社長の清田義昭氏が「今、どんな本が売れているか」について解説。さらに小学館



懇親会ではなごやか雰囲気の中で名刺交換や情報交換が行われた

大勢の参加者を集めた講演会

忘年会

12
15

2005年最後の協会行事となった忘年会が、12月15日(木)午後6時30分から東京・飯田橋の居酒屋「北海道」で開催されました。当日は正会員、準会員、賛助会員などのほか、協会顧問弁護士の桑野雄一郎先生や、協会行事で何度も講師を務めている社会保険労務士の中村俊之先生などをお招きし、40名を超える盛大な集まりとなりました。



忘年会で乾杯の音頭をとる賛助会員・大日本印刷株の池田敬二氏(写真中央)

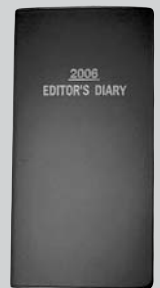
一般書&企業出版合同部会

1
13

2006年最初の行事として、一般書&企業出版合同部会が1月13日(金)午後6時30分から東京・神田神保町のイタリアンバー「LIBERTE」で開催され、20名を超える会員が参加しました。

「EDITOR'S DIARY」発行

広報委員会が毎年制作している「EDITOR'S DIARY」の2006年版(定価1,300円)が発行されました。手帳機能に加え、「会員社紹介」「編集制作料金基準表」「編集制作業務の契約」など情報が盛り込まれ、編集制作に携わる人びとにとって必携の手帳となっています。



告知

現理事・監事の任期が今年5月開催予定の通常総会をもって満了となることから、以下の要領で次期役員を選出を行います。なお理事の定員は7名(最少6名)、監事は2名で、任期は2年です。

◆立候補の受付

2月上旬に正会員へ立候補受付の文書を発送し、2月末に立候補を締め切ります。

◆選挙の実施

①立候補者が定員を上回った場合

3月上旬に立候補者を明記した投票依

頼を送付。3月15日に投票を締め切り、翌16日に監事立ち会いのもとで開封・集計します(監事の被選挙権は妨げない)。

②立候補者が定員数と同じ場合

信任投票を行い、不信任者(不信任が信任投票を上回った場合)が出た場合は欠員を他薦方式で補います。

③立候補者が定員に満たない場合

立候補者を明記した上で、他薦を募集し、自薦・他薦を問わずに投票数の多い順に役員候補として就任要請を行います。